

コンピュータ問題1000年問題

二〇〇〇年まで残すところ二か月半となりました。テレビや新聞で話題になっている、「コンピュータ問題1000年問題」。すでに対応されている人や企業も多いと思います。周辺に迫ったこの問題について、もう一度みなさんに理解を深めていただくとともに、企業などに対する支援策を紹介します。

1000年問題とは?

コンピュータの日付は一般的に西暦で処理されています。西暦で処理されていけば何ら問題がなかったものの、コンピュータのメモリーを節約する措置として、西暦年の上二桁を省略し、下二桁だけで処理されているものがあります。



この場合、一九九九年は「一九九」「一〇〇〇年」は「〇〇」となり、前年の「九九」と比べ、大小が逆転し、問題が起きてしまいます。コンピュータは「〇〇」を「一九〇〇年」と認識したり、混乱してストップしたり、さまざまなトラブルを引き起こす恐れがあります。

企業でのトラブルは

各企業でもコンピュータは欠かせないものになっていきます。具体的には次のような問題が発生する可能性があります。

①給与計算などの計算処理、データ管理などのトラブル
正しい日付表示や年数計算ができなくなり、社内のトラブルはもちろん、取引先にも迷惑をかけることになります。

②エレベーター、空調設備、セキュリティ装置などのトラブル
事務処理用のコンピュータだけでなく、マイコン（マイクログチップ）などのプログラムを内蔵した小型チップによって制御されている機械や設備でもトラブルが発生する恐れがあります。

工場や流通過程におけるシステムについても注意が必要です。

万が一に備え
二〇〇〇年まで残すところ、三か月を切つたいま、まだ対応に着手していない企業には早急な対応が求められます。

事前の対応とともに、不測の事態に備え「危機管理計画」(酒作樹などが起草した場合の対応手順や方法、コンピュータシステム使用不能時の代替手段などの対応)を立てておく必要があります。

困ったときは
「専門家」を活用
国では、中小企業への支援制度として、フリーダイヤルによる無料相談を受け付けています。お気軽にご相談ください。

自治体の対応は
交通機関や
国・県・市、金融機関、電気・通信事業者、交通事業者、病院などでは、この問題を解決するための取り組みを行い、コンピュータシステムの故障を行うなど必要な対応が順調に進められており、問題のないことが確認されています。

また、万が一の事態に備えた「危機管理計画」を策定し、万人の体制で年末年初に備えることとしていきます。

町の対応は
町の電気業、防災行政無線システム、上下水道業務は、点検・修正作業を完了しました。

家庭での対応は
日常生活への影響については専門家でも予測がつかない部分もあります。

家庭での自衛策として、三日程度の非常食品や飲料水などの備蓄をおすすめします。

これらの備蓄は、災害に備えた物資にもなります。

防災にも安心です



生活用品
水
1日分一人 3ヶ月目安に

防災ラジオ
手回しの電池も

水
1日分一人 3ヶ月目安に